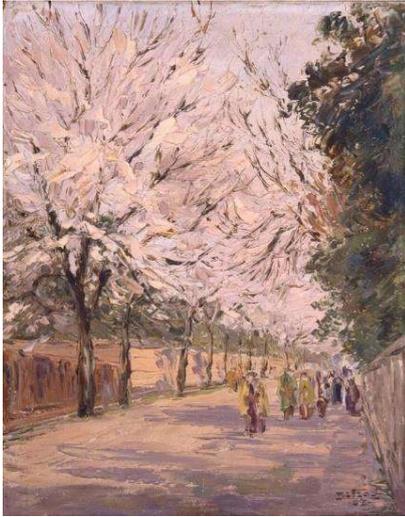


令和5年1月12日


 (1) チット・プアブット
 《上野公園、東京美術学校》1942年

 (2) ランポー・カンサノウ
 《胴上げ》2008年

令和4年度 コレクション展 旅立ちのとき

1月～3月は新年の訪れとともに、受験や卒業を経て新たな生活へと旅立つ季節です。

それにあわせ、**卒業や学び舎、旅立ちや出会いをテーマにしたアジア近現代美術の作品を集めた展覧会を開催します。**

タイを離れ日本で学んだ作家が桜咲き誇る春の学び舎を描いた作品（左図1）や、友人たちが卒業を迎えたおばあさんを胴上げして祝う様子をユーモアたっぷりに描いた作品（左図2）など、人生の折々に寄り添うような作品を見つめながら、あなた自身の大切な思い出を振り返ってみましょう。

アジア地域との交流の歴史を刻んだ福岡でしか見られない、当館近現代美術コレクションによる展覧会です。何卒、本展覧会の広報へのご協力をよろしく願いいたします。

同時開催のコレクション展

①あじびコレクションX「POSTWAR / 戦後」

日本人にとっての戦後は、第二次世界大戦が終結する1945年から。しかし今なお戦争に苦しむ国々が世界にあふれている。ベトナム、カンボジアの人々にとっての戦後とは。

②私から問うーアジアの現代写真

写真作品が盛んに制作され始めた1980年代以降の、作者自身を写した作品を紹介します。

③境界を行き交うーアジアのインスタレーション

2000年代に制作されたアジアのインスタレーション作品を紹介します。

④あじびレジデンスの部屋 第3期

「アパ・カバール（元気ですか）？ ニンディティオ」

インドネシア現代美術のキーパーソン、ニンディティオが当館に滞在制作したときの記録を、彼の立体作品とともに展示。


 ①リー・ダラプー
 《伝令》2000 / 2005年

 ②アマンダ・ヘン
 《発展・もうひとりの女#4》1998年

 ③イン・シウジェン（中国）
 《スーツケース2001》2001年

 ④ニンディティオ・アディプルノモ
 《私はそんなジャワ人ではない》2000-2001年

【会 期】 令和5年1月2日（月）～3月21日（火・祝）

休館日：毎週水曜日

【観覧時間】 午前9時30分～午後6時
 （金・土曜は午後8時まで。入室は閉室30分前まで）

【会 場】 福岡アジア美術館 アジアギャラリー

【観 覧 料】 一般200円/高大生150円/中学生以下無料

【主 催】 福岡アジア美術館

〈問い合わせ先〉

Tel: 092-263-1100

Fax: 092-263-1105

学芸課/兼原（くわばら）・

ラワンチャイクン